

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地				
近畿医療専門学校		平成20年3月24日	清原 伸彦	〒 530-0047 (住所) 大阪府大阪市北区西天満5-3-10 (電話) 06-6360-3003				
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人近畿医療学園		平成20年3月24日	小林 英健	〒 530-0047 (住所) 大阪府大阪市北区西天満5-3-10 (電話) 06-6360-3003				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
医療	医療専門課程	鍼灸学科 昼間部	平成23(2011)年度	-	平成29(2017)年度			
学科の目的	近畿医療専門学校鍼灸学科は、はり師きゅう師に関する知識・技術の習得を関連企業、業界団体等と密接に連携しながら職業教育としての水準向上を図っていく。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	取得可能な資格: はり師・きゅう師 中退率: 9.9%							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技	
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	2,676 単位時間 105 単位	1,952 単位時間 82 単位	64 単位時間 4 単位	180 単位時間 4 単位	0 単位時間 0 単位	480 単位時間 15 単位
	生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)				
180 人	150 人	0 人	0 %					
就職等の状況	■卒業者数(C) : 36 人 ■就職希望者数(D) : 36 人 ■就職者数(E) : 32 人 ■地元就職者数(F) : 20 人 ■就職率(E/D) : 89 % ■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 63 % ■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 89 % ■進学者数 : 0 人 ■その他 : (令和4年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報) ■主な就職先、業界等(令和4年度卒業生) 病院 接骨院 鍼灸整骨院 介護施設など							
	第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL						
	当該学科のホームページURL	http://www.kinkaisen.ac.jp/						
	企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)						
		総授業時数		2,676 単位時間				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		96 単位時間					
	うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間					
	うち必修授業時数		2,676 単位時間					
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		96 単位時間					
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間						
(B: 単位数による算定)								
総授業時数		105 単位						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		3 単位						
うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位						
うち必修授業時数		105 単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		3 単位						
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者(専修学校設置基準第41条第1項第1号)		6 人					
	② 学士の学位を有する者等(専修学校設置基準第41条第1項第2号)		3 人					
	③ 高等学校教諭等経験者(専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0 人					
	④ 修士の学位又は専門職学位(専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0 人					
	⑤ その他(専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0 人					
	計		9 人					
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		7 人						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

現在柔道整復師が活躍する最新のニーズに対し、現場で施術所経営を行っている企業と協力し、教育課程編成委員会を通じ、関連企業や団体より意見をいただきながら、実践に即した授業を展開していく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

組織図に則り設置。教育課程編成委員会で審議された内容に関しては、校務運営会議にて再度審議し、各部署に必要な情報の提供を行う。各部署は、提供された情報を参考に会議等を通して教育の質の向上に努める。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
黒田 佳秀	日本柔整鍼灸革新会	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	①
荒木 善行	大阪府鍼灸師会 副会長 漢方瑞祥庵	令和3年4月1日～ 令和6年3月31日	③
清原 伸彦	近畿医療専門学校 校長	令和3年4月1日～ 令和6年3月31日	
藤原 光	近畿医療専門学校 教務部長	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日	
西堀 健司	近畿医療専門学校 事務長	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日	
平口 昌幹	近畿医療専門学校 鍼灸学科長	令和3年4月1日～ 令和6年3月31日	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年9月27日 13:30～14:30

第2回 令和5年3月20日 13:30～14:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

多様化する患者の疾病構造を、現場の第一線で活躍されている先生から情報をもらい、その情報に沿った内容を吟味し、授業展開を再考している。(教員と関連企業との打ち合わせは不定期に必要なに応じて行っている)場合によっては、学外授業(セミナー等)を行い、学生らに早期から現場の情報を知ってもらう工夫をしている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実際の医療現場で求められる技術や知識を養う授業において柔道整復師に関する法律の規定に準じる臨床経験豊富な柔道整復師等に担当いただき、現場の求める人材の育成に役立たせる。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

医療現場のニーズに即した内容を打合せのもとに行っていく。主に現場で使われている各種施術法を伝授していただいている。また、必要に応じて、企業と教員が意見交換を行っている。

正規のカリキュラム外で、実習見学先として本校学生に勉強の機会を与えてもらっている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
臨床鍼灸実技Ⅰ	美容鍼灸師対しての知識と技術を学ぶ	南上町鍼灸指圧整骨院
応用鍼灸実技Ⅴ	様々な鍼灸治療を特殊鍼法等まじえながらその手法を学ぶ	安立針灸院
臨床鍼灸実技Ⅲ	婦人科疾患に対する鍼灸治療の知識と技術を学ぶ	南上町鍼灸指圧整骨院

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

それぞれに期待する専門分野に関する知識を向上させるため、研修に参加させていく。
「教科科目」「教務事務」「学生指導」と専門分野を分け、それぞれに合った研修会に参加させる。
研修会への参加は、校長、副校長、教務部長、学科長で協議した上で、適示指示する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 「女性的一生に寄りそう鍼灸」 連携企業等: 大阪府鍼灸師会
期間: 令和4年11月13日 対象: 専科教員
内容: 女性的一生に寄りそう鍼灸師に必要な知識と技術

研修名: 第5回学術講習会 連携企業等: 大阪府鍼灸師会
期間: 令和5年2月12日 対象: 専科教員
内容: 耳鍼の基礎と神経学的アプローチ

研修名: 連携企業等:
期間: 対象:
内容:

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 教員のための指導力向上セミナー 連携企業等: 大阪府専修学校各種学校連合会
期間: 令和4年9月29日 対象: 専任教員
内容: 共通の目標に向かって助け合いながら主体的に学ぶ学生集団をつくる

研修名: 人権教育研修会 連携企業等: 大阪府専修学校各種学校連合会
期間: 令和4年12月13日 対象: 専任教員
内容: メンタル面で支援の必要な生徒への支援を考える

研修名: 連携企業等:
期間: 対象:
内容:

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 漢方概論 ①	連携企業等: 株式会社ツムラ 医薬情報課
期間: 令和5年9月12日	対象: 専科教員
内容: 東洋医学弁証論 虚実と寒熱について	
研修名:	連携企業等:
期間:	対象:
内容:	
研修名:	連携企業等:
期間:	対象:
内容:	
② 指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: 専門学校向け教学セミナー	連携企業等: 株式会社進研アド
期間: 令和5年7月21日	対象: 専科教員
内容: 2024年度入学生に求められる学生指導とは	
研修名:	連携企業等:
期間:	対象:
内容:	
研修名:	連携企業等:
期間:	対象:
内容:	

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校関係者として、本校教職員、業界の実務者、卒業生、地域の方と共に、学校関係者評価委員会を設置して、教育目標や教育環境等について評価し、教育理念、学校運営、教育活動、学生支援などの改善の参考とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	教育理念・目標
(2) 各学科等の教育	教育活動、学科の特徴
(3) 教職員	教育活動
(4) キャリア教育・実践的職業教育	学修成果、各種取組
(5) 様々な教育活動・教育環境	教育環境
(6) 学生の生活支援	学生支援
(7) 学生納付金・修学支援	学費について、学費サポート制度
(8) 学校の財務	財務
(9) 学校評価	自己評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	法令等の遵守、社旗貢献、地域貢献

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.kinkiisen.ac.jp/>

公表時期: 令和5年5月31日

授業科目等の概要

(医療専門課程 鍼灸学科 昼間部)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		健康科学	栄養の分野で明らかにされた科学的事実や、人々の疾病予防と健康増進に役立てるための理論と方法を学ぶ。	2	32	2	○			○			○	
2	○		社会体育Ⅰ	健康の増進に関する課題について学習し健康について考える	2	32	2	○			○			○	
3	○		社会体育Ⅱ	健康の増進に関する課題について学習し健康について考える	2	32	2	○			○			○	
4	○		社会科学Ⅰ	医療従事者として知っておきたい経済情報、情報管理の仕方について学ぶ。	3	32	2	○			○			○	
5	○		社会科学Ⅱ	医療従事者として知っておきたい経済情報、情報管理の仕方について学ぶ。	3	32	2	○			○			○	
6	○		人文科学Ⅰ	簡単な日常会話、英作、リスニングをバランス良く学習し、英語の基礎的な能力向上を図る。また、患者とのコミュニケーション方法について学ぶ。	1	32	2	○			○			○	
7	○		人文科学Ⅱ(コミュニケーション)	医療英会話を基本としてコミュニケーションと対人関係についての知識を学ぶ	1	32	2	○			○			○	
8	○		解剖学Ⅰ	人体の構造について骨学を中心に体の基本構造を学ぶ	1	32	1	○			○		○		
9	○		解剖学Ⅱ	人体の構造について筋学を中心に体の基本構造を学ぶ	1	32	1	○			○		○		
10	○		解剖学Ⅲ	人体の構造について呼吸器・消化器を中心に体の基本構造を学ぶ	1	32	1	○			○		○		
11	○		解剖学Ⅳ	人体の構造の基礎と泌尿器、生殖器、内分泌器、感覚器についての基本構造を学ぶ	1	32	1	○			○		○		
12	○		解剖学Ⅴ	人体の構造について循環器を中心に体の基本構造を学ぶ	1	32	1	○			○			○	

13	○		解剖学Ⅵ	人体の構造について神経系を中心に体の基本構造を学ぶ	1	32	1	○			○	○		
14	○		運動学	人間の運動を科学的に分析し、動作などが論理的に学ぶ	3	32	1	○			○	○		
15	○		生理学Ⅰ	生理学基礎と循環、呼吸についての人体の機能について学ぶ	1	32	1	○			○		○	
16	○		生理学Ⅱ	消化吸収、代謝についての人体の機能について学ぶ	1	32	1	○			○	○		
17	○		生理学Ⅲ	排泄、内分泌、生殖についての人体の機能について学ぶ	1	32	1	○			○	○		
18	○		生理学Ⅳ	神経、感覚についての人体の機能について学ぶ	1	32	1	○			○	○		
19	○		生理学Ⅴ	筋、生体防御、身体活動についての人体の機能について学ぶ	1	32	1	○			○	○		
20	○		病理学概論Ⅰ	細胞レベルでの病気の発生、経過、状態を学習する。	2	32	1	○			○	○		
21	○		病理学概論Ⅱ	細胞レベルでの病気の発生、経過、状態を学習する。	2	32	1	○			○	○		
22	○		病理学概論Ⅲ	国家試験に準じる病理学の知識を復習する。	3	32	1	○			○	○		
23	○		衛生学 ・ 公衆衛生学Ⅰ	疾病予防や健康の保持・増進の知識と技術を習得するとともに、これらが展開される	2	32	1	○			○		○	
24	○		衛生学 ・ 公衆衛生学Ⅱ	公衆衛生のための制度・対策の概要を講義する。生活環境と疾病との関係を講義する。	2	32	1	○			○		○	
25	○		衛生学 ・ 公衆衛生学Ⅲ	国家試験に準じる衛生学の知識を復習する。	3	32	1	○			○	○		
26	○		リハビリテーション医学Ⅰ	医療従事者に必要なリハビリテーション医学について学ぶ。また、鍼灸師として遭遇し得る疾患とそのリハビリについて学ぶ。	2	32	1	○			○	○		
27	○		リハビリテーション医学Ⅱ	医療従事者に必要なリハビリテーション医学について学ぶ。また、鍼灸師として遭遇し得る疾患とそのリハビリについて学ぶ。	2	32	1	○			○	○		

28	○		リハビリテーション医学Ⅲ	国家試験に準じるリハビリテーション医学の知識を復習する。	3	32	1	○			○	○		
29	○		臨床医学総論Ⅰ	患者との医療面接、診察法、症候について十分な理解と技能の習得を目指す。	2	32	1	○			○	○		
30	○		臨床医学総論Ⅱ	患者との医療面接、診察法、症候について十分な理解と技能の習得を目指す。	2	32	1	○			○	○		
31	○		臨床医学総論Ⅲ	国家試験に準じる臨床医学総論の知識を復習する。	3	32	1	○			○	○		
32	○		臨床医学各論Ⅰ	鍼灸師が知っておくべき各種疾患の特徴を学ぶ。また、疾病のメカニズムやその原因について理解を深める。	2	32	1	○			○	○		
33	○		臨床医学各論Ⅱ	鍼灸師が知っておくべき各種疾患の特徴を学ぶ。また、疾病のメカニズムやその原因について理解を深める。	2	32	1	○			○	○		
34	○		臨床医学各論Ⅲ	鍼灸師が知っておくべき各種疾患の特徴を学ぶ。また、疾病のメカニズムやその原因について理解を深める。	3	32	1	○			○	○		
35	○		臨床医学各論Ⅳ	運動器の各部位機能解剖を学び、それぞれの特徴的な疾患・症状などに対する整形外科的アプローチを理解する。	3	32	1	○			○	○		
36	○		医療概論・職業倫理	鍼灸師に必要な医学的知識を包括的に学ぶ。医療従事者として必要な社会保障制度、倫理を学ぶ。	2	32	2	○			○	○		
37	○		関係法規	鍼灸師に関する法律、医事法規、医療制度について学ぶ	3	32	2	○			○	○		
38	○		経絡経穴概論	鍼灸師の行う治療において、経絡経穴が意識されないものは、治療とは言い難い。法について学ぶ。	1	64	4	○			○	○		
39	○		東洋医学概論	東洋医学の基本的概念を学び病態把握から証をたて治療に至るまでの基礎内容を学習	1	64	4	○			○	○		
40	○		鍼灸医学演習	東洋医学概論と東洋医学的臨床論を総合し病態把握ができるように学習する	3	64	4	○			○	○		
41	○		はりきゅうの適応	鍼灸師にとって対象となる疾患が業務範囲にあるかどうかを適切に判断し、実施できる知識を学習する	3	64	4	○			○	○		
42	○		臨床生理学	生理学の復習を兼ねながら、疾病や症状に対する病態を生理学的見地より学習する	3	32	2	○			○	○		

43	○		触察解剖	鍼灸師に必要な身体的指標を観察し視診・触診の学習をする	3	32	2	○	△		○	○						
44	○		東洋医学臨床論 I	鍼灸治療の適応疾患・不適応疾患を理解し、その病態把握と治療法について学ぶ	2	64	4	○			○	○						
45	○		東洋医学臨床論 II	スポーツ疾患について、その病態把握と治療法についての知識を学ぶ	2	32	2	○			○							○
46	○		社会鍼灸学	医療従事者として社会に貢献するために必要な知識を学ぶ。	3	32	2	○			○	○						
47	○		基礎鍼灸実技 I	灸について学び、患者に対して安全に施灸できる技術を習得する	1	32	1				○	○						
48	○		基礎鍼灸実技 II	はりに関する基礎知識を学ぶとともに基礎技術の反復練習を行う。	1	32	1				○	○						
49	○		基礎鍼灸実技 III	はりに関する基礎知識を学ぶとともに基礎技術の反復練習を行う。	1	32	1				○	○						
50	○		基礎鍼灸実技 IV	灸について学び、患者に対して安全に施灸できる技術を習得する	1	32	1				○	○						
51	○		基礎鍼灸実技 V	実技を通して、鍼灸臨床に必要な基礎的技術と診察法を習得する。	1	32	1				○	○						
52	○		基礎鍼灸実技 VI	実技を通して、鍼灸臨床に必要な基礎的技術と取穴法を習得する。	1	32	1				○	○						
53	○		応用鍼灸実技 I	基礎的な技術の修練に加え、より臨床に近づいた東洋医学的病態把握を四診法を中心に学ぶ	2	32	1				○	○						
54	○		応用鍼灸実技 II	東洋医学臨床論に基づく弁病を弁別でき、弁証に基づいた治療を行う。	2	32	1				○	○						
55	○		応用鍼灸実技 III	主な筋の起始・停止・作用を理解した上でその筋を触診し、そのトリガーポイントと経穴の関連性を学ぶ	2	32	1				○	○						
56	○		応用鍼灸実技 IV	スポーツ疾患に対しての診察技術や治療技術およびコンディショニングを含む処置を学ぶ	2	32	1				○	○						
57	○		応用鍼灸実技 V	鍼灸治療の適応疾患・不適応疾患を理解し、その病態把握と治療法が実践できる	2	32	1				○	○					○	○

58	○		応用鍼灸実技Ⅵ	症状に対する鑑別をするための各種検査や整形外科的徒手検査法を学ぶ	2	32	1			○	○	○				
59	○		臨床鍼灸実技Ⅰ	様々な鍼灸治療を特殊鍼法等まじえながらその手法を学ぶ	3	32	1			○	○		○	○		
60	○		臨床鍼灸実技Ⅱ	美容鍼灸師対しての知識と技術を学ぶ	3	32	1			○	○	○				
61	○		臨床鍼灸実技Ⅲ	婦人科疾患に対する鍼灸治療の知識と技術を学ぶ	3	32	1			○	○		○	○		
62	○		臨床実習Ⅰ	治療所での正しい来院患者への対応、医療面接の技術、病態把握ができ、治療方法を理解する。来院患者数が少ない場合は患者対応を想定した練習を行う。	1	45	1			○	○	○				
63	○		臨床実習Ⅱ	治療所での正しい来院患者への対応、医療面接の技術、病態把握ができ、治療方法を理解する。来院患者数が少ない場合は患者対応を想定した練習を行う。	2	45	1			○	○	○				
64	○		臨床実習Ⅲ	治療所での正しい来院患者への対応、医療面接の技術、病態把握ができ、治療方法を理解する。来院患者数が少ない場合は患者対応を想定した練習を行う。	3	90	2			○	○	○				
65	○		総合学習Ⅰ	骨・筋の触知を行いながら取穴を行い、解剖学、経穴の復習を行う	1	64	2	○	△		○	○				
66	○		総合学習Ⅱ	解剖学と生理学の知識をより深め、知識の底上げを図る。	1	64	2	○	△		○	○				
67	○		総合学習Ⅲ	様々な鍼灸道具や鍼灸の手技などに関する基礎的な知識を身につける。また、はり・きゅうがどのような仕組みによってその効果を発揮しているのかについて現代科学的な視点から捉えていく。	2	64	2	○	△		○	○				
68	○		総合学習Ⅳ	東洋医学・西洋医学の知識を実際の鍼灸臨床に役立つように知識を深め研究発表を行う	2	64	2	○	△		○	○				
69	○		総合学習Ⅴ	国家試験過去問題を解かせて解説を行い、国家試験に対応できる知識を修得する。	3	64	2	○	△		○	○				
70	○		総合学習Ⅵ	国家試験合格レベルまで知識を高められるよう問題に取り組む。	3	64	2	○	△		○	○				
合計					70	科目	2676					単位時間				

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：		1学年の学期区分	3期
履修方法：		1学期の授業期間	○週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。